

# 丁寧形基調の書き言葉における 普通形文末の混用

鏡 耀子

## ◆要旨

**本**稿では、丁寧形基調の文章中で普通形になりやすいのはどのような文か、また丁寧形基調の中で普通形を使うことにはどのような働きがあるかについて、書籍コーパスを用いて検討する。普通形になりやすい文は、使用される文章の目的によって異なる。筆者が自身の考えを述べる文章では、筆者の主張やそのきっかけとなる問題提起を表す文に普通形が見られる。出来事や特定の対象物について紹介する文章では、これから述べる事柄に関する事実や問題提起を表す文に普通形が見られる。読者に対して具体的な行動を促す文章では、重要な指示を最初に示す文に普通形が使われる。このような違いが見られるのは、丁寧形基調の文章における普通形には、読者の注意を引きつけて後続内容にスポットライトを当てる働きがあるためだと考えられる。

## ◆キーワード

文体シフト、「です・ます」、丁寧語、書籍コーパス

## ◆ABSTRACT

This study aims to clarify what kinds of sentences can occur in honorific-neutral form (hereafter, 'plain form') within a polite style text and what function the use of plain form has in such cases using a corpus comprised of books. What kinds of sentences tend to occur in plain form depends on the purpose of the text as a whole. In texts where the author aims to express his or her personal opinion about a matter, plain form is observed in sentences in which the author makes assertions or raises issues. In texts where the author aims to introduce events or specific objects, sentences that represent a fact or an issue related to the matter of discussion can be found in plain form. For texts that try to encourage readers to perform a concrete action, plain form is observed in sentences toward the beginning of the text in which the author gives an important instruction. It can be said that the function of plain form sentences within a polite style text is to grab the attention of the reader and place a spotlight on the following content, giving rise to the various usage scenarios described above.

## ◆KEY WORDS

style shift, "desu, masu", polite language, book corpus

## A Study on the Use of Honorific-neutral Sentences in Polite Style Text

YOKO KAGAMI

# 1 はじめに

日本語の述語形式には、「です・ます」がつく丁寧形と「です・ます」がつかない普通形とがあり、これらは同一文章内ではどちらかに統一されることが通例とされる。しかし実際には、丁寧形が基調となっている文章に普通形の文が混用されることがあり、日本語教育でも指導を行うべきとの声もある（熊谷2001, 石黒2006など）。しかし、この混用がどのような場合に起きるかということはいまだにも検討されてきたものの、未だ不明瞭な点も残されているため、日本語教育で扱うべきか否かを問う前に、まずは混用が起る際の特徴について整理しておく必要があると考える。

そこで本稿では、丁寧形基調の文章中において普通形になりやすいのはどのような文か、また丁寧形基調の中で普通形の文を使うことにはどのような働きがあると考えられるかについて検討する。

# 2 先行研究

書き言葉における混用を扱ったものとして、メイナード（1991）、野田（1998）、熊谷（2001）、石黒（2006）、黒木（2006）、中村（2011）、砂川・マダドナー（2017）が挙げられる。これらの結果をまとめると、丁寧形基調の文章中に見られる普通形の文の特徴は、「文の従属性」「文の意味内容」「文の出現位置」という三つの観点から記述できることが分かる。それぞれの研究において、普通形の特徴として挙げられた内容をまとめると、表1のようになる。

表1から分かる通り、文の従属性が高いと普通形になりやすくなるという見解はおおむね一致している。しかし一方で、文の意味内容や出現位置に関する記述には様々なものがあり、普通形が使われることによる働きの統一的な説明には至っていないように思われる。また、ある性質の文が普通形になりやすいということを証明するためには、丁寧形の文も含めた文の総数を把握する必要があるが、上記のうちそのような調査を行っているのは砂川・マダドナー（2017）のみである。そこで本稿では、様々なジャンルの書籍のデータを収集し、

表1 丁寧形基調の文章における普通形の文の特徴

先行研究	調査対象	文の従属性	文の意味内容	文の出現位置
メイナード (1991)	小説の会話文、随筆	情報を後景化する文	話者が感情をそのまま表現する文	—
野田 (1998)	エッセイ、小説など	他の文に従属している文	聞き手に伝達する意識がないまま、自分が思ったことを述べる文	—
熊谷 (2001)	新聞投書	—	筆者の心理が表現される文	投書の中間部（筆者の論が展開される部分）
石黒 (2006)	エッセイ、小説など	後続文への依存性の高い文	事実や報告を表す文	—
黒木 (2006)	小論文	後続文に従属的な内容を持つ文	—	段落の最初の部分
中村 (2011)	論説的文章	—	対比、問題提起と解答、判断・意見、手順・順序、科学的根拠を表す文（筆者が自身の思考を過程的に提示する文）	（手順・順序と科学的根拠を表す文に関して）段落の中間部
砂川・マダドナー (2017)	東京新聞社説	前後の文脈に対して従属性の高い文（後景的な情報を明示する文）	重要な主張の根拠や前提を提示する文	—

どのような文が普通形となりやすいのかを文の総数から明らかにすること、および普通形になることによる働きの統一的な説明を得ることを目指す。

# 3 分析対象

本稿では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）の「出版・書籍」コーパスを対象とする。短単位検索で語彙素を「です」、前後の語数を500語として検索を行い、丁寧形基調の文章中に普通形の文が混用されている例を目視で抽出した。コアデータは全て分析対象とし、非コアデータは「文学」「分類なし」を除いた九つのジャンルから、ランダムサンプリングによって無作為に選んだ丁寧形基調の各10作品を分析対象とした<sup>[註1]</sup>。その結果、作品数の合計は115作品となり、そのうちの64作品において計608例の普通形の文が見られた。なお本稿では、名詞終止の文、文末にあるべき部分が省略されている文、前文の倒置の形になっている文も普通形の文とみなし、分析対象に含める<sup>[註2]</sup>。

## 4 文の意味内容と形式による分類

まず、文章を構成している全ての文を、意味内容によって分類する。野田（1998）は、文章・談話を構成する文を、表2のような5種類に分類した。本稿でもこれを基とするが、心情文は出現数が少ない上、筆者の主観を表す点で主張文と共通しているため、主張文に含めることとする。また、伝達文の「質問」と「命令」は性質が異なると考えるため、前者を「問いかけ文」、後者を「指示文」として区別する。したがって、本稿では文を「従属文」「事実文」「主張文」「問いかけ文」「指示文」という5種類に分ける。

表2 野田（1998）による文の種類

心情文	聞き手に伝達する意識がないまま、自分が思ったことを述べる文
従属文	従属節と同じように、ほかの文に従属している文
事実文	単に事実だけを客観的に述べる文
主張文	事態にたいする判断や説明を、話し手が聞き手に主張する文
伝達文	聞き手にたいする質問や命令を、話し手が聞き手に伝達する文

従属文には、直後に「これ」「そんな」などの指示詞が見られる（1）のような文、および単独では内容的に不十分である（2）のような文が含まれる。なお、従属性は普通形の出現に大きく関わる要素であるため、本稿では前後の文脈に従属性を持つ文は全て従属文とし、従属性が低い文、すなわち指示詞や内容の不十分さが見られない文を他の分類に振り分ける。

(1) 亡くなった先祖を思い出して、言葉をかけてあげる。そして、先祖の霊がやすらげようと供養と感謝の気持ちを持つ。そういう心がたいせつです。 (PB11\_00021, 『霊能者』)

(2) お米を中心に据えて、一食の食事をととのえるということには、さまざまな要素を盛り込む必要があります。味のバランス、栄養のバランス、食べ手の健康状態、年齢構成、旬の素材、はては懐具合まで。

(PB25\_00187, 『小山裕久の日本料理で晩ごはん』)

事実文は、従属性が低く、出来事、事実、状態などを述べる文で、筆者の主な主張内容ではないと考えられる文である。一方、主張文は、従属性が低く、

ある事柄に対する筆者の意見や判断を述べる文である。ここでは砂川・マダドナー（2017）にならい、文末に「～と主張します」「～と評価します」という表現を加えて文脈上成り立つものを主張文と認定する。以下、(3)は事実文、(4)は主張文の例を示している。

(3) ヨットというのは実は命懸けのスポーツでした。しかも、当時は冬場のウエットスーツもないし、今よりずっと危険なスポーツだった。

(PB33\_00032, 『教育再生！』)

(4) また、最近は音楽や体育にまでペーパーテストが実施されていますが、そんなことは行いません。その分野では実習あるのみです。運動がよくできる子なのに体育の評価が低いという理不尽なことが、今の小学校では起こっているようですが、ナンセンスとしか言いようがない。

(PB33\_00032, 『教育再生！』)

問いかけ文は、従属性が低く、筆者自身や読み手に対して問題提起や質問をする文である。ただし、疑問文の形式をとっていても筆者の主張を示している場合もあり、そのようなものは主張文とする。また、指示文は、従属性が低く、読み手に何らかの具体的な行動を促す文で、丁寧形であれば通常「～ください」「～ましょう」などの形で示される文である。問いかけ文の例を(5)、指示文の例を(6)に示す。

(5) 「軽く目をつむってくださいね」と、院長の高江洲薫先生が、優しく声をかけます。目をつむるのは飼い主です。そして、そこで何が起こるのか？心安らぐ音楽が流れてきました。 (PB26\_00043, 『犬と話ができる！』)

(6) ダンベルを両手に持って、大きくゆっくり左右に振ります。腰から下を動かさないように固定して、筋肉への刺激を意識しながらしっかりひねること。 (PB15\_00060, 『ダンベル体脂肪ダイエット』)

以上の分類ごとに、それぞれの程度普通形になっているのかをまとめると、表3のようになる。

これを見ると、普通形の混用が最も起こりやすいのは従属文であり、40%以上の割合で普通形になることが分かる。次に割合が高いのは問いかけ文で、事実文、主張文、指示文はいずれも10%に満たないという結果になった。これにより、従属性が普通形の出現に大きく影響していることが改めて確認できたが、一方でこれまでの研究で述べられてきたような文の意味内容による影響は、従属性を除外して文の総数に占める割合を調べてみるとあまり見られないという結果になった。

そこで、さらに細かく見るため、文末の形式によっても分類を行う。基本的に文末の品詞によって分類するが、助動詞のうち「ない」「たい」「らしい」は形容詞と同様の活用をするため、他の助動詞と区別する。また、名詞で終止する文の場合、名詞が述語になっているものとそうでないものとを区別し、さらに上記の(6)のように「～すること」の形で指示を表すものは特殊な例として区別する。その他、文末に来るべき部分が省略されている文、前文の倒置の形になっている文、疑問文の形式になっている文をそれぞれ分類する。

そのように分けた上で、文の意味内容の分類と併せて普通形の文の数をまとめると、表4のようになる。下線部は、文の意味内容別に見たときに割合が高くなっている箇所を示す。

表4において、文の意味内容ごとに多くを占める形式を見ていくと、従属文では動詞終止の文が多いのに対して、事実文、主張文では名詞終止の文が多い。

表4 意味内容・形式別に見た普通形の文の数

	動詞	形容詞	形容動詞	助動詞	ない／たい／らしい	名詞(述語)	名詞(非述語)	「こと」指示	省略	倒置	疑問	計
従属	<u>110</u>	12	1	11	25	36	21	0	18	24	21	279
事実	32	6	0	2	4	<u>85</u>	9	0	7	0	0	145
主張	15	19	0	0	21	<u>43</u>	1	0	5	0	6	110
問いかけ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	<u>17</u>	17
指示	4	1	0	0	1	<u>21</u>	0	<u>9</u>	<u>21</u>	0	0	57
計	161	38	1	13	51	185	31	9	51	24	44	608

表3 意味内容別に見た普通形の文の数

	文の総数	普通形
従属	610	279 (45.74%)
事実	3550	145 (4.08%)
主張	1622	110 (6.78%)
問いかけ	94	17 (18.09%)
指示	1282	57 (4.45%)
計	7158	608 (8.49%)

問いかけ文は言わずもがな疑問文になっているが、指示文では「こと」で終止する文の他、名詞終止文や文末に省略が起きている文が多い。このように文の意味内容によって、普通形になる場合に使われやすい形式の傾向があることが確認できたものの、名詞終止文が多いという点ではあまり大きな差異がないといえる。以上のように、従属文は普通形になりやすいことが明らかであるが、他の文に関しては意味内容による目立った差異が見られない。そのため、普通形になる文の特徴を記述するためには、その文自体の特徴に注目するだけでは不十分であると考えられる。そこで次節では、従属文以外の文について、使用される文章の性質や出現箇所との関係から、普通形の現れ方を検討する。

## 5 文の意味内容と文章の性質から見た普通形の現れ方

ここでは、従属文を除いた文の意味内容ごとに、どのような文章のどのような箇所でも普通形が使われているのかを見ていくこととする。

それにあたり、まず文章の性質について整理しておく。今回使用した書籍コーパスの各作品は、どのようなことを目的とした文章であるかによって、次のような三つの種類に分けられる。一つ目は、ある事柄について、筆者が自身の考えを述べて考察することを目的とした文章である。事実に対する言及も含まれるが、それらは筆者の主張の前提や根拠となる情報として示されるものであり、主な目的は筆者が自身の主張を展開することにある。二つ目は、過去の出来事や特定の対象物について、紹介したり説明したりすることを目的とした文章である。筆者個人の考えはほぼ入らず、事実の紹介に終始しているというものである。そして三つ目は、読者に対して具体的な行動を促すことを目的とした文章である。テーブルマナーやダイエットなどといった特定のテーマについて、正しい方法を解説するものであり、読者に対する働きかけが強い文章となっている。以下、便宜のため、それぞれを「論説型」「紹介型」「手引き型」として呼び分ける。また、これらの分類は連続的であって、必ずしもいずれか一つに明確に分けられるというわけではない。

このように各作品の文章を分類した上で、事実文、主張文、問いかけ文、指示文の普通形の現れ方をそれぞれ見ていく。

## 5.1 普通形事実文の現れ方

はじめに、事実文の普通形の現れ方について見る。コーパスの作品ごとに、事実文の総数を調べ、それに占める普通形の事実文の割合を調べた。その割合の高かった上位10作品をまとめると、表5のようになる。左列はそれぞれの作品がどのような文章であるか

を示しており、「論」は論説型、「紹」は紹介型、「手」は手引き型であることを表している。二つの種類に跨ると判断できる場合には、二つともに印をつけた。

表5 普通形事実文が見られる上位10作品とその用例数

論	紹	手	作品名	事実文の総数	普通形
	○		お墓曼陀羅	79	18 (22.78%)
	○		智能気功の健康法	58	10 (17.24%)
		○	藤井聡の犬がどンドン飼い主を好きになる本	89	15 (16.85%)
		○	戦国二人三脚	67	11 (16.42%)
		○	お笑い芸人の合コンに学ぶ心理戦術	7	1 (14.29%)
○	○		やりなおし教養講座	89	12 (13.48%)
		○	ダンベル体脂肪ダイエット	95	10 (10.53%)
	○		防災から見た季節と天気	100	10 (10.00%)
		○	鳥羽水族館館長のジョーク箱	119	7 (5.88%)
○			教育再生!	62	3 (4.84%)

表5より、事実文の普通形は紹介型の文章で見られやすいことが分かる。次に挙げるものは紹介型の例である。

- (7) 千住回向院の墓地の中に、二十畳敷きくらいの広間のような、低いブロック塀で囲まれた、勤皇の志士たちの一画があります。南北に細長い矩形の空間は、石畳が敷かれ、北側から入ると、正面に四基の墓が北面し、左右の東辺西辺に、それぞれ十基ずつ、そして入口側の北の短辺に八基と、石畳の広間を囲む形で居並んでいます。そして南西の隅に、桜田門志士を悼む、自然石の歌碑が立つ。 (PB22\_00002, 『お墓曼陀羅』)
- (8) 一部の気功の本には、「腹式呼吸で酸素をたくさん取り入れると、新陳代謝が促進して健康が増進される」というような説明があります。ところが実際には、練功をしているあいだは呼吸回数がふだんより少なくなり、取り入れる酸素の量は減少。酸素消費量もふだんより減少します。 (PB34\_00340, 『智能気功の健康法』)
- (9) 「生ける化石」と呼ばれるカブトガニ。約三億年前に登場し、今日まで連綿と生きつづけてきた理由はいくつか考えられますが、その一つと

して、カブトガニには目が四つしていることがあげられるでしょう。

(PB24\_00012, 『鳥羽水族館館長のジョーク箱』)

(7) では、これから述べる「桜田門志士」に関する内容へと話を転換させる文で普通形が使われている。(8) では、普通形の文によって、前文の内容を否定して話を展開させている。(9) も (7) と同様にこれから述べる事柄に言及しているものであり、話題の開始部分で名詞終止の文が使われている。

なお、(9) のような述語でない名詞で終止する文は、事実文に特に多く見られる。述語でない名詞で終止し、かつ従属文でない文は全部で10例見られたが、そのうちの9例が事実文であった。このような文は、後続部分で述べる話題について示す、見出し語のようなものとして使われていると考えられる。

(7) から (9) の文に共通していえることは、筆者がこれから述べる話題について言及している文であるということである。事実を紹介することを目的とした紹介型の文章においては、次に何を述べるかを整理して事実を提示することが重要であり、そのような箇所では普通形が使われていることが確認できる。

また、手引き型の文章も比較的高い割合を示しており、その例としては次のようなものがある。

- (10) 犬にはそもそも、持って生まれた“得意技”があります。ボーダーコリーは羊を追いつまむのが得意、ゴールデンレトリバーは狩猟犬として、猟で得た獲物をくわえて持ち帰るのが得意、水猟犬もいます。その代表がラブラドルレトリバー。

(PB46\_00126, 『藤井聡の犬がどンドン飼い主を好きになる本』)

(10) は犬との接し方について述べた手引き型の文章であるが、(9) と同じく、非述語の名詞で終止する文によって、これから述べる内容が示されている。この(10)の部分は、「犬をどのように水に慣らすか」という後続内容に入るための前提となる部分であるため、作品の目的である手引きのために重要な箇所であるといえる。

このように、普通形の実事文は、紹介型や一部の手引き型に主に見られ、こ

れから話す内容について述べる文で見られる。

## 5.2 普通形主張文の現れ方

次に、主張文について見る。主張文に占める普通形の割合が高い上位10作品をまとめると、表6のようになる。

これにより、主張文の普通形は、論説型の文章に多く見

れることが分かる。以下は論説型の例である。

- (11) しばしば多くの写真評論家や社会学者たちは、イメージを現実と取り違える危険性を指摘します。しかし一方で、その舌の根の乾かぬうちに、モノクロ写真がもつリアリティを賞賛します。これはどちらも、同じ論理を背景にしたものではないか。いやむしろ、後者の賞賛こそが前者を支えているといってもいい。フィルム写真に「物」としての魅力を見出すのは、まるで貨幣が金で鑄造されているから価値があると言うようなものです。(PB47\_00008, 『痕跡の論理』)
- (12) 公設民営の学校とは、自治体が学校の建設費用などを拠出し、場合によっては補助金を出しながら運営は民間に任せるといった仕組みの学校で、初等教育における選択肢を広げるといった目的があります。議論が始まったばかりですから、すぐには実現しないでしょうが、将来このような学校がいくつかできるのなら、その一つを私に任せてほしい。必ず成果を上げ、実績を残す自信があります。(PB33\_00032, 『教育再生！』)
- (11) では、前文脈の内容を普通形の文で否定し、筆者自身の考えを述べて、論を展開させている。(12) は、「筆者がもし自分の学校を作るならどのような

表6 普通形主張文が見られる上位10作品とその用例数

論	紹	手	作品名	主張文の総数	普通形
		○	藤井聡の犬がどんどん飼い主を好きになる本	65	24(36.92%)
○	○		日本美術傑作の見方・感じ方	6	2(33.32%)
○			痕跡の論理	46	10(21.74%)
○	○		やりなおし教養講座	39	8(20.51%)
○			教育再生!	134	25(18.66%)
		○	ダンベル体脂肪ダイエット	31	5(16.13%)
○	○		選択集講座	69	7(10.14%)
○			「論理力」がカンタンに身につく本	31	3(9.68%)
	○		お笑い芸人の合コンに学ぶ心理戦術	21	2(9.52%)
○			白洲正子全集	59	1(1.69%)

教育をするか」ということを述べる文章の序盤に見られる箇所であり、論のきっかけとなる主張が普通形で示されている。

また、手引き型の文章にも普通形的主張文が比較的多く見られる。

- (13) ここでは、とりわけ早く治したい「腰痛」と「便秘」を改善するダンベル補助体操をご紹介します。いつものダンベル体操に加えて、毎日続ければ効果倍増。無理をしない程度に、楽しみながらやってみましょう。(PB15\_00060, 『ダンベル体脂肪ダイエット』)

(13) は、これから手引きを行う体操について、続けることで効果が増すことを強調する文である。このように主張することで、効果的に手引きへと誘導することができると思われる。

ただし、手引き型の場合、名詞終止の主張文が多いという特徴がある。表6に挙げた作品のうち、論説型の7作品と手引き型の3作品について、名詞終止の主張文が1作品あたりどの程度現れるかの平均を求めたところ、論説型で1.29例であるのに対し、手引き型では8.67例とかなり多くなっていた。性質の異なる論説型と手引き型とで共に主張文が多く見られるのは、このような主張文の形式の違いによると思われる。ただし、形式的には異なっているが、筆者がこれから述べようとしている内容について、そのきっかけとなる大まかな主張が普通形で示されているという点は共通している。

これは、砂川・マダドナー(2017)の「ダ体へのシフトが行われた文はそれにくより重要な主張の根拠や前提を表すものであった」という指摘にも一致する。論説的な文章においては、筆者がまず自身の考えをまとめて示すことが効果的である。そしてそのような重要な箇所でも普通形が見られるということが確認できた。

以上のように、普通形的主張文は論説型や手引き型に見られ、論を展開する文で見られる。また、手引き型では名詞終止になる場合が多い。

## 5.3 普通形問かけ文の現れ方

次に、問かけ文についてである。問かけ文に占める普通形の割合が高い

上位10作品をまとめる  
と、表7のようになる。

全体的に出現数が少ない  
が、論説型と紹介型に  
同程度見られるというこ  
とが分かる。以下はその  
例である。

表7 普通形問かけ文が見られる上位10作品とその用例数

論	紹	手	作品名	問かけ 文の総数	普通形
○	○		やりなおし教養講座	2	2 (100%)
	○		戦国二人三脚	1	1 (100%)
○			ハッとさせるための「文章力」入門	2	2 (100%)
	○		ユダヤ・キリスト・イスラム集中講座	2	2 (100%)
	○		犬と話ができる！	1	1 (100%)
○			書ける！話せる！	4	2 (100%)
	○		「資本」論	3	1 (33.33%)
○			教育再生！	4	1 (25.00%)
○			痕跡の論理	4	1 (25.00%)
	○		本当にアテネるとのこと	4	1 (25.00%)

(14) とにかく、アイヴィ・リーグと呼ばれている大学というのは、非常に限られた数（八つ）の私立大学で、本来はミッショナリーが経営していたものです。《中略》それでは、「アイヴィ・リーグ」は他の大学とどこが違うのか。 (PB40\_00078, 『やりなおし教養講座』)

(15) そして、おさないころから利発さを発揮した猿千代は、世継ぎに恵まれない利長に見込まれ、九歳にしてその養嗣子となります。《中略》ところで、チョが利常を産んだとき、利家が金沢に滞在していたことは前述しましたがけれど、ではまつはどこにいたか。京に残って、二男・利政の婚儀に出席していたのでしょうか。 (PB22\_00114, 『戦国二人三脚』)

(14) では、これから筆者が述べる事柄について普通形で問題提起がなされており、それが論のきっかけになっていると考えられる。(15) では、普通形の問かけ文によって、「猿千代」の話から、これから述べる「まつ」の話へと転換している。

このように、普通形の問かけ文は論説型と紹介型に見られ、次の話題へと転換する際に用いられると考えられる。

#### 5.4 普通形指示文の現れ方

最後に、指示文について見る。普通形の指示文が使われている作品は全部で9作品であり、それらを普通形の割合が高い順に並べると表8のようになる。

表8より、普通形の指示文は手引き型のみで見られることが分かる。丁寧形

表8 普通形指示文が見られる9作品とその用例数

論	紹	手	作品名	指示文 の総数	普通形
		○	お笑い芸人の合コンに学ぶ心理戦術	4	2 (50.00%)
		○	あなたが花になる美しい日本語	3	1 (33.33%)
		○	藤井聡の犬がどんどん飼い主を好きになる本	112	36 (32.14%)
		○	中小建設業のISO入門	9	1 (11.11%)
		○	礼儀と作法	76	7 (9.21%)
		○	「この人から買いたい」と思わせるプロの接客！	11	1 (9.09%)
		○	ダンベル体脂肪ダイエット	85	7 (8.24%)
		○	「社労士」になって独立・開業	22	1 (4.55%)
		○	体脂肪・コレステロールを下げる外食コントロールbook	28	1 (3.57%)

の指示文は他の文章にも見られるが、普通形になるのは手引き型に限られるということである。以下は手引き型の例である。

(16) ハズしたらハズしたで、また違う展開にもっていけるんです。ハズしたことを逆手にとって、「ああ気持ちいい、ウケてねえわ」とかですわ。「それがやりたかったら、お前！」とつつこませるためのフリにしましょう。あるいは、「お前らダメだぞ、笑わなきゃ、オレ死んじゃうよ？」と逆にみんなに対してつつこんでしまう手もありますわ。

(PB51\_00077, 『お笑い芸人の合コンに学ぶ心理戦術』)

(17) 言いたいことにはいつもひと言の花を添えること。「どうぞ」や「お願い」は言葉に添える花とお考えください。

(PB58\_00031, 『あなたが花になる美しい日本語』)

(16) では、宴会において「ハズした」際にまずとるべき対応を普通形の文で指示し、その後に代替案を示している。(17) では、まず重要な指示を普通形の文で出し、それについて後続文で具体的に補足している。

このように、普通形の指示文は手引き型のみにおいて見られ、重要な指示を最初に示す際に使われていることが分かる。

## 6 考察

以上のような普通形の使われ方に共通していえることは、文章中で内容の展

開が見られる重要な箇所使われているということである。これから述べる内容を大まかに示す文で普通形が使われ、それをきっかけに話を進めたり、後続文でより具体的に説明したりするといった使われ方がなされている。つまり、丁寧形が基調となっている文章中であえて普通形を使うことにより、読者の注意を引きつけ、次に話す内容にスポットライトを当てるような効果が生まれると考えられる。このことは、熊谷（2001）や砂川・マダドナー（2017）が、新聞社説において見られる普通形の特徴として述べていたことであるが、社説に限らず一般的な書籍においても、さらに論説的な文章以外においても見られるということが明らかになった。これは丁寧形基調の文章中で普通形を使用することによる文章表現上の働きといえるだろう。

また、どのような文で読者の注意を引きつけるべきかということは、文章の目的によっても変わってくる。論説型であれば「主張」が大事なものとなるため、筆者自身の主張やそのきっかけとなる問題提起が、論の展開部で普通形で示される。紹介型であれば「事実」が大事なものとなるため、これから述べる事柄に関する事実や問題提起が、論説型と同様に論の展開部で普通形で示される。さらに、手引き型では「指示」が大事なものとなり、まず重要な指示を示して、その後付加情報を提示するという際に普通形が使われる。もし日本語教育で書き言葉の混用を扱うこととなり、その使い分けの習得を目指すのであれば、このような文章に応じた使い分けも把握しておくべきであると考えられる。

以上の点をふまえることで、先行研究の知見も統一的に説明できる。普通形になりやすい文の意味内容に関して、先行研究ではいくつかの指摘がなされていたが、これはどのような文を重要視するかという文章の性質によって異なってくるため、対象とした資料や文章の内容の差異が反映されたものと考えられる。しかしいずれにせよ、その文が読者の注意を引きつけ、後続内容にスポットライトを当てる働きをしていることは共通していると考えられる。また、文の出現位置に関しては、段落の最初と中間部という大きく2種類の指摘があったが、これも後続内容を強調すべき箇所という点で共通している。出現位置との関係についてはさらに検討する余地があるが、予想できる傾向として、筆者の論が展開される段落の中間部では主張文が、全体の内容を示す冒頭部では事実文や問いかけ文が現れやすくなるのではないかと考えられる。

## 7 おわりに

本稿では、丁寧形基調の文章中において普通形になりやすいのはどのような文か、また丁寧形基調の中で普通形の文を使うことにはどのような働きがあると考えられるか、という点について検討した。

どのような文が普通形になりやすいかということは、使用される文章の目的によって異なる。筆者が自身の考えを述べて考察することを目的とした文章では、筆者自身の主張やそのきっかけとなる問題提起が、論の展開部において普通形で示される。過去の出来事や特定の対象物について紹介したり説明したりすることを目的とした文章では、これから述べる事柄に関する事実や問題提起が、やはり論の展開部において普通形で示される。そして読者に対して具体的な行動を促すことを目的とした文章では、まず重要な指示を示して、その後付加情報を提示するという際に普通形が使われる。

そのような違いが見られるのは、丁寧形基調における普通形の文には、読者の注意を引きつけ、後続内容にスポットライトを当てる働きがあるためだと考えられる。その文章が何を重要視するかによって、注意を引きつけるべき文が異なってくるということである。これは丁寧形基調の文章における普通形を持つ文章表現上の働きと考えられる。

今後検討すべき点として、構造的な要因との関わりという点が挙げられる。本稿では詳しく扱わなかった従属文も普通形になりやすい文であるが、それは従属度という構造的な要因によるものであり、本稿で扱ったような文章表現上の効果を狙った文とは異なる要因による。つまり、同様に丁寧形で実現される文の中にも、構造的な要因によるものと文章表現上の要因によるものがあるということになる。この二つの要因がどのように関係しているのかについては、さらに丁寧に整理する必要がある。

最後に、このような混用を日本語教育で扱うことに関しては、筆者は中村（2011）と同様に、学習者全員に指導するのではなく必要に応じて指導すれば良いと考える立場をとる。ただし、仮にこのような混用を産出できるレベルまで学習したいというニーズがあった場合には、今回検討したような、書きたい文



章に応じて混用の仕方を変えるということにまで言及する必要があるだろう。そのようなニーズに対応するためにも、さらに精緻に検討を行う必要があると考える。 〈東北大学大学院生〉

## 注

[注1] …… より書き言葉的な性格の強い作品を対象とするため、話し言葉を書き起こしたものである対話形式の作品は対象から除外した。会話文が使われることのある「文学」ジャンルを除外したことも同様の理由による。

[注2] …… 文末にあるべき部分が省略されている文は以下の (i)、前文の倒置の形になっている文は以下の (ii) のようなものを指す。

(i) 壁につく手の幅を狭くすると、腕全体を鍛えることができます。腕を引き締め、強くしたい時に。(PB15\_00060, 『ダンベル体脂肪ダイエット』)

(ii) しかし、私は、私のありったけ全部を此処に書くつもりです。日記の様毎日少しずつ、とりとめもないままに。(PB10\_00086, 『白洲正子全集』)

## 参考文献

石黒圭 (2006) 「日本語学者の文章表現講座 第五回「です・ます形」と「だ・である形」の共存」『本が好き!』5, pp.41-47. 光文社

熊谷滋子 (2001) 「新聞投書にみる文体の効果—「ですます体」と「非ですます体」の混用を通して」『人文論集』52(1), pp.273-286. 静岡大学人文学部

黒木晶子 (2006) 「日本語母語話者が書いた小論文に関する一考察—丁寧体と普通体の混用についての分析を中心に」『文教国文学』50, pp.65-78. 広島文教女子大学国文学会

砂川有里子・マダドナーめぐみ (2017) 「東京新聞社説にみられる文体シフト」『日本語教育連絡会議論文集』29, pp.54-71.

中村重穂 (2011) 「文体混用に関する一考察—「だ・である」体の「です・ます」体への混用について」『北海道大学留学生センター紀要』15, pp.20-39. 北海道大学国際本部留学生センター

野田尚史 (1998) 「「ていねいさ」からみた文章・談話の構造」『国語学』194, pp.89-102. 国語学会

メイナード・K・泉子 (1991) 「文体の意味—ダ体とデスマス体の混用について」『言語』20(2), pp.75-80. 大修館書店

## 調査資料

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(中納言2.4.5, データバージョン2020.02) <https://chunagon.ninjal.ac.jp/> (2020年8月確認)